

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071401188		
法人名	医療法人 康整会		
事業所名	グループホーム ツーハーツ		
所在地	福岡市早良区次郎丸5丁目18番28号 〒814-0165 (電話) 092-861-0064		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年12月1日	評定確定日	平成21年1月9日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 15 年 5 月 1 日				
ユニット数	3 ユニット		利用定員数計	27 人	
職員数	22 人	常勤 21 人	非常勤 1 人	常勤換算	21.5 人

(2) 建物概要

建物構造		鉄骨 造り
	4 階建ての～	2,3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	○ 無	
保証金の有無 (一時金を含む)	○ 有 (200,000 円)	有の場合 償却の有無	○ 有 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日あたり 1,260 円程度		

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

登録人数	27 名		男性	2 名	女性	25 名
要介護 1	4 名		要介護 2	6 名		
要介護 3	7 名		要介護 4	10 名		
要介護 5	0 名					
要支援 1	名		要支援 2	名		
年齢	平均	83.2 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	黒田整形外科医院・白十時病院・福岡歯科大学病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体である医療法人が、地域におけるグループホームの必要性を認識し、1ユニットからスタートし、2年かけて3ユニットの現体制を作り上げた。グループホームがある建物内には、他にデイサービス、有料老人ホーム、居宅介護支援事業所を併設している。開設当初から、地域との交流を理念に掲げ、地域を意識した取組みが行われており、清掃活動や防犯のためのパトロール等に協力している。ケア全般にわたり決して無理強いせず常に待つ姿勢で臨んでおり、長期にわたって入浴拒否が見られた利用者が、突如、自分の意志で入浴を行ったことは、職員間での統一したケアへの対応が実を結んだ賜物である。外部評価以外に介護サービス評価にも積極的に取組んでおり、質の向上に向けた真摯な姿勢が伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果については、運営推進会議にて報告を行い、又、各ユニットに掲示するなど、結果を広く周知し様々な意見を前向きに捉えるように努めている。この過程において、地域との更なる交流を意識するなど、質の向上に向けた取組みがある。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員で分担して自己評価を行いまとめるなど、職員がかかわっての自己評価の実施がある。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議時には、外部評価や介護サービス評価の報告を行い、中学校との連携や幼稚園児等の訪問受入れ、大規模災害時の高齢者の受入れについて提案を受けるなど、活発な意見交換の場となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族訪問時の声かけやその都度の電話連絡、ホーム便り、担当職員による利用者一人ひとりの様子を綴った利用者毎の便りの送付を通じて、家族の意見や希望の表出に努めている。出された意見等は、カンファレンスや朝・夕の申し送り、その都度のミニカンファレンスにて協議を行い、必要に応じて文書で回答するなどの対応がある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加盟しており、町内清掃や防犯パトロールなどの参加がある。地域商店を利用した日々の買物や散歩時の地域の遊歩道での会話など、日常の中でのさりげない交流がある。

2. 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ 理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設時より、地域とのかかわりを意識した理 念の作成がある。その時々の利用者の状況に配 慮しながら、地域交流への働きかけがある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの出入り口に理念が掲示してあ り、常に目につく工夫がある。朝礼時の唱和を 通じて、理念を意識したケアへ取り組むよう に努めている。		
2 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会に加盟しており、町内清掃や防犯パト ロールなどの参加がある。地域商店を利用した 日々の買物や地域の遊歩道の散歩など、日常 の中でのさりげない交流がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果については、運営推進会議に て報告を行い、又、各ユニットに掲示するな ど、結果を広く周知し様々な意見を前向きに捉 えるように努めている。今回の受審にあたり、 職員で分担して自己評価を行いまとめるなど、 職員がかかわっての自己評価の実施がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	運営推進会議時には、外部評価や介護サー ビス評価の報告を行い、中学校との連携や幼稚園 児等の訪問受入れ、大規模災害時の高齢者の受 入れについて提案を受けるなど、活発な意見交 換の場となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加がある。また、社会福祉協議会職員や保護課担当職員の定期的訪問が行われるなど、連携が図られている。		
7 追加	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内部においての勉強会を通じて、制度について職員の理解を深めるための取り組みがある。家族に対しては、契約時のパンフレットを配布して説明は行われているが、繰り返し、継続的な説明は行われていない。	○	運営推進会議や家族会等を利用して、定期的・継続的に広く情報を発信し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援体制への取り組みに期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族訪問時の声かけやその都度の電話連絡等による状況説明がある。ホーム便り、担当職員による利用者一人ひとりの様子を綴った利用者毎の便りの送付を通じて、様々な報告がある。		
9 (8)	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時の声かけやその都度の電話連絡等により、家族の意見や希望の表出に努めている。出された意見等は、カンファレンスや朝・夕の申し送り、その都度のミニカンファレンスにて協議を行い、必要に応じて文書で回答するなどの対応がある。		
10 (9)	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	突発的な事態にも利用者に対して安定した支援が行えるように、法人内での異動の実施がある。新しい職員が入職した場合は、余裕を持たせた勤務体制と勤務毎に先輩職員が指導にあたるなど、利用者に配慮した取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、何らの制限は設けていない。募集は法人で行い、職員の適性や希望を見極めての配置である。働きながらのレベルアップとしての資格取得を目指し、勤務調整を行うなどの体制がある。		
12	20 追加	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内部の勉強会において取り組みがある。職員の人権意識を喚起するような取り組みとして、広義の意味においての人権について外部の講習会へ参加するなどの取り組みは、今後の課題である。	○	職員の意識を喚起する意味において、行政主催の講話会等に参加したり、出前講座を利用するなど、定期的・継続的な人権教育や啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画立てた法人内部での勉強会の実施がある。各種研修案内を掲示し、希望を募ったり、指名するなど、各種外部研修への参加の機会がある。研修参加後は法人内部の勉強会にて報告するなど、知識の共有に努めている。		
14 (11)	22 (20)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員個人レベルで、他のグループホームへの見学等の実施がある。事業所間での職員の交流や連携等については、今後の課題である。	○	法人内で行われる勉強会に他のグループホームの参加が見られます。こういった事業所との交流・連携を実践していただき、職員間の見学や相互研修、情報交換等の機会の確保に努め、質の向上に向けての取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用者がグループホームに入居したり、見学後ショートステイ利用を経て入居に至るなど、馴染みの関係を構築するための取り組みがある。入居後の家族訪問は、家族と相談しながら利用者の状況に応じてお願いするなど、利用者が早く馴染むための工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話や遊び、折り紙の折り方、方言、郷土料理の作り方など、日常のかかわりの中で、学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りや他事業所からの情報収集、日常のかかわりを通じて、利用者本人の思いや希望などの把握に努めている。把握された思いや希望などを統一した様式等を使用して情報共有するまでには至っていない。	○	センター方式を一部利用するなど、統一した様式等を使用して、把握内容の共有と充実に努められることを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月の担当者会議にて職員からの意見を聞き、3ヵ月毎の見直しの際に家族からの意見等を聞いて介護計画を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヵ月毎、及び状態変化時の見直しがある。 毎月の担当者会議にて、職員の気づきを取りま とめ、意見の統一を図っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	公民館等において介護保険制度に対する説明 やホーム退去後の面会、家族対応が無理な時の 受診支援など、柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に十分説明したうえで、ホーム協力病 院が今までのかかりつけ医の継続利用かを選択 してもらっている。今までのかかりつけ医や専 門科への受診は、基本は家族対応であるが、無 理な場合はホームで対応している。		
22 (19)	49 (47)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	平成18年より「重度化対応・終末期ケア対応 指針」を準備し、家族に説明の上同意を得てい る。日常のかかわりを通じて、利用者本人の意 向の把握は行われているが、情報の共有は今後の 課題である。	○	日常のかかわりを通じて把握した本人の意 向について、センター方式を一部利用するな ど統一した様式等を使用して情報の共有に努 め、今後予想される状態変化に応じた話しあ いや、本人・家族の希望に沿っての支援体制 づくりに努めていただくことを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者によって反応のよい称呼を用いたり、 丁寧にお礼を述べるなど、利用者のプライドを 尊重した対応が見受けられた。また、職員が帰 る際は、利用者一人ひとりに対してきちんと挨拶 を行っていることから、利用者に対する尊 敬の念を持ったケアが伺える。		
24 (21)	54 (52)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、日中の過ごし方、入浴 のタイミングなど、無理強いせずに利用者の希 望やペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事は、厨房にて併設事業所も含めてまとめ て調理されている。つぎわけや配膳、下膳、片 付けなど、利用者の能力を引き出しながらの対 応がある。職員は利用者と同じテーブルを囲 み、ゆっくりと食事を楽しんでおり和やかな雰 囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴が可能であるが、利用者の希望や 状態に応じて週2～3回の入浴実施である。拒否 が見られる利用者に対しては、決して無理強い せず常に待つ姿勢で臨んでおり入浴を楽しめる ように努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	掃除、テーブル拭き、新聞購読、趣味の絵画 の継続支援など、利用者一人ひとりの得意なこ とや出来ること、趣味などを把握したうえで、 役割づくり、楽しみへの支援が見られた。		
28 (25)	63 (61)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	天候の良いときの散歩、買物、計画立てたド ライブなど、利用者の希望に沿った柔軟な対応 がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	各ユニットとも、日中は開錠されている。職 員は利用者の言動を良く観察しており、何気な いサインを見逃さずタイミングよく声かけする などの対応がある。利用者の状況と職員体制等 により一時的に施錠する時は、その都度の説明 がある。		
30 (27)	73 (71)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練の実施がある。運営推進 会議時を利用して防災ビデオの上映を行うな ど、非常災害時の協力体制を得るための働きか けがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士による献立作成であり、食事や水分の 摂取量の把握を通じて、栄養バランスの把握が ある。利用者の状況により代替メニューを準備 するなど、利用者一人ひとりに応じた支援があ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット出入り口は季節を感じる飾りつけ がなされている。また、利用者の手作り作品を 展示し、ベランダの洗濯物や畳に半纏が何気な く置かれているなど、家庭的な雰囲気づくりへ の工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、仏壇や筆筒、テレビ、ぬい ぐるみ、写真、観葉植物などの、思い出の品や 使い慣れたものがあり、ゆっくりと落ち着いて 過ごすことができる居室づくりへの工夫があ る。		

- ※  は、重点項目。
※ (数字) は、国の標準例による番号